

令和五年（二〇二三年）



# 森高康行ミニ通信

No.190

新年よろしくお願ひ致します！

感謝合掌 大変穏やかな正月三日でした。日差しは強く、寒さは弱く、過ごしやすい日々でした。

しかし、天気は良好なものの北朝鮮のミサイルは花火のように打ち続けられ、驚かない状況は、もはや大変な危機なものではないとの声も大きくあります。

隣国韓国こそ保守政権となり正常化が期待されるものの、中国はコロナ禍を巡る対応も台湾有事も含めて危険な国として、冷静に付き合わなければなりません。本年の世界はウクライナ戦争の行く末も含めて、大変に心配される日々が続く様です。

中村知事が四選され、公約も最も大切にする姿勢を評価すると共に、その第一声は防災でした。

私自身この課題にこだわり続けて、**防災セミナーも第十二回目(令和五年三月四日)を開催する予定です。**

『災害は忘れた頃に来ている』と題した講演を、本市三島出身の高村裕平国土交通省国土地理院長に依頼しており、皆様のご参加をお待ちしております。また、当日取り上げる課題などもぜひお寄せください。

**ナザレンコ・アンドリー**氏をしこちゅくホールに招き、評論活動するウクライナ人留学生からの講演を、二月十一日（建国記念の日）に予定しております。併せてご参加

宜しくお願ひ申し上げます。平和創造を自らの課題として取り組んで参りましょう。

## 節目の昨年

既にご報告の通り、県議として在職三十五年で地方自治功労総務大臣感謝状及び全国都道府県議長会より永年勤続功労者表彰の栄に浴させて頂きました。これもひとえに地元選挙区の皆様方がご支援下さり育てて頂いた賜物であり、私の努力だけでは得られるものではありませんでした。また、両親や家族親族の皆さんや、後援会に集い活動に参加して下さった方々との共働あればこそと感謝致しております。

去る十一月二十二日の『感謝の集い』でも申し上げましたが、二十八歳で町議当選以来地方議員としての活動は、山あり谷あり、真逆の出来事ありの状況でありました。今振り返ると反省することも多いのですが、悔いは決してありません。色々と豊かな経験をさせて頂き、今日の私があります。

令和二年三年と愛媛県監査委員を務めさせて頂きました。コロナ禍で、あらゆる仕事が中止延期、そして自粛。群れるな、集うな、懇親を深めるな、等等、政治家として致命的な行動制限下でも私なりに励みになる監査委員の仕事でした。共に委員を務めた方より、その豊かな経験を書き残せとの声もあり、せめて次世代を担う若者に語りたいたいの想いを、赤石黎明塾の活動を通して、ふるさとの青年たちと語り合う場を通じて経験を語らせて頂いております。いずれ折を見て書き残すことにも挑戦致しますので、よろしくお願ひ致します。（この活動に興味のある方はお問い合わせください。）

昨年は六十五歳になり前期高齢者と国に認定され、制度上介護保険証を持つこととなりました。これは、人生の節目を自覚せざるを得ない体験でした。

## 統一地方選挙

私にとつては県議として十回目、町議出馬から通算十一回目の選挙であり、三月三十一日告示、四月九日投票の四国中央市選挙区からの出馬になります。今のところ六名の出馬予定ということで、これまでに経験したことのない激闘の選挙が予想されており、私の周囲でも厳しい選挙戦になるとの心配する声も大きくなりつつあり、日々挨拶回りに努めております。特に保守系の乱立という激しさもあり、誰が落選しても不思議ではないとの声も大きくなりつつあります。

【各種世論調査を見ても、政治に対する信頼は著しく低下し、言論の自由が令和元年に行った調査で70.9%が「わが国を取り巻く諸課題の解決を政党や政治家に期待することはできない」と答えた。この傾向は若者層に顕著で、日本財団が同年秋季に九カ国の17歳各千人を対象に行った調査でも、「自分の国がよくなる」と答えた日本の若者は10%を切り、約四倍の88%は逆に「悪くなる」と答えている。次代を担う若者が、低迷する政治の現状により敏感に反応しているということであろう。これまで社会を健全に維持していくのは難しい。背景には急ぐべき諸課題の解決を先送りしてきた、この国の戦後政治にある。】（産経新聞 令和五年一月五日記事）  
この様に、政治不信、政治家への不満は大きく深い現状です。

しっかりと訴えて、選挙民の声をよく聞いて参りたいと存じます。会合等開催時には是非お声掛けください。可能な限り参ります。**共に歩んで参りましょう！**

何卒宜しくお願ひ致します。

令和五年一月 記

愛媛県議会議員

森高 康行